

1面：堺師団長着任・07JXR

2面：富士登山駅伝(1普連)・HTC(32普連)

3面：富士登山駅伝支援(34普連)・北町阿波踊り(1後支連)

4面：対空実射訓練検閲(1高大)・師団訓練検閲(1施大)
ドアガン射撃(1飛行)・王子コンサート(1音)

5面：師団訓練検閲(1偵戦大)・大隊訓練検閲(1通大)
CBR対処訓練(1特防)・隊訓練(1師付)



令和7年9月25日 第31号

師団長統率方針「任務完遂」
師団長要望事項「一生懸命」

陸上自衛隊第1師団広報紙

発行：第1師団司令部総務課広報班
賛助：第1師団懇話会
所：東京都練馬区北町4-1-1
電話：03-3933-1161 (内線2150～2157)
専用線：8-31-2156

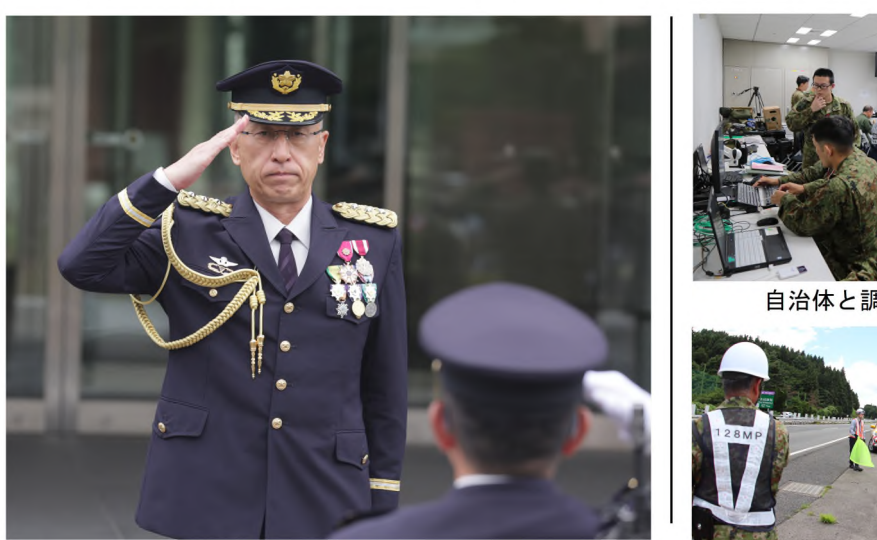
堺陸将が第42代師団長に着任 「一生懸命」を要望事項に組織と隊員の進化を強調



8月1日、第42代第1師団長として堺 一夫 陸将が陸上総隊司令部幕僚長から着任した。堺師団長は練馬駐屯地に着任後、駐屯地慰霊碑及び頭号師団慰霊顕彰室において献花し、殉職隊員に哀悼の誠を捧げた。その後、儀仗隊による栄誉礼を受け、厳粛な雰囲気の中、着任行事が執り行われた。

着任式はVTC形式で実施され、堺師団長は師団の全隊員に向けて訓示を述べた。師団長は冒頭「近年の安全保障環境の変化は著しく、戦い方の進化は我々の想像をはるかに超える速度で進行している」と述べ、時代に即した柔軟な対応の必要性を言及し、その上で「新たな情報を積極的に取り入れ、最新技術を活用し、常に運用を見直しながら進化していくことが、任務達成の鍵である」と強調した。加えて「これほど装備や技術が進歩しても組織の力の源は『人』である」という考えを示し「一人を大切にすること、隊員とその家族に心を配る組織であり続けることが何よりも重要」と述べた。

さらに「人も組織も経験だけでは進化しない」と述べ「各人がそれぞれの立場で具体的な目標を掲げ『一生懸命』努力し続けることが、自らの成長と部隊の力につながる」と述べ、全隊員に対する要望事項を「一生懸命」とした。また陸上作戦の遂行には「国民の理解と信頼が不可欠」とし、各駐屯地の方針に基づいた地域との良好な関係づくりにも引き続き努めていくよう呼びかけた。



第42代 第1師団長 堺 一夫	
生年月日	昭和44年12月13日
出身地	兵庫県
学歴等	防衛大学校(平成4年3月卒業)
主要経歴	
平成26年3月	第21普通科連隊長兼ねて 秋田駐屯地司令(秋田)
平成27年8月	陸上幕僚監部運用支援・情報部 運用支援課長(市ヶ谷)
平成29年8月	富士学校普通科部長(富士)
令和元年8月	西部方面総監部幕僚副長(健軍)
令和2年8月	第1空挺団長兼ねて 習志野駐屯地司令(習志野)
令和4年3月	東部方面総監部幕僚長兼ねて 朝霞駐屯地司令(朝霞)
令和6年3月	陸上総隊司令部幕僚長(朝霞)



鳥海陸将は令和6年8月に第41代師団長として着任以来「使命を果たす」を統率方針とし、「信頼」「安全」を要望事項に掲げ、首都防衛の重責を担う頭号師団を力強く指揮した。離任にあたり駐屯地を後にする鳥海陸将には、隊員一同が盛大な見送りを実施(写真)。し、その姿には感謝と敬意が込められていた。今後は西部方面総監として、新任地においても、その使命を果たすことになる。

西部方面総監へ栄転 炎天下の盛大に見送る

鳥海陸将は令和6年8月に第41代師団長として着任以来「使命を果たす」を統率方針とし、「信頼」「安全」を要望事項に掲げ、首都防衛の重責を担う頭号師団を力強く指揮した。離任にあたり駐屯地を後にする鳥海陸将には、隊員一同が盛大な見送りを実施(写真)。し、その姿には感謝と敬意が込められていた。今後は西部方面総監として、新任地においても、その使命を果たすことになる。

07JXR 首都直下地震に備えた実効的演練 令和7年度自衛隊統合防災演習に参加

◆指揮所訓練における連携と情報の統合
指揮所訓練では、東京都庁に師団司令部の連絡官(LO)を派遣して、東方総監部が設置する陸上幕僚監部調整所に調整要員を配置するとともに、さらに東方総監部にも師団から要員を派遣し、

上級部隊・隷下部隊・関係自治体と密接に連携しながら、災害派遣における「情報収集・意思決定・部隊運用」の各フェーズを検証した。また平素から災害時に至るまでの情報業務フローや一体的な運用要領の実効性の検証を行った。

加えて各自衛隊学校から派遣された増強幕僚の配置・連絡調整要員としての運用方法についても司令機能との適合性を確認した。さらに、被災状況に応じた予備自衛官の投入時期や規模の見積りなど、災害対応における部隊運用の緊急開口部を利用し、

用全体を多面的に検討するとともに、発災直後、師団各部隊からの各担区へのLO及びファーストフォース(初動対応部隊)の派遣状況、他方面隊から増援される師・旅団からの引き継ぎ状況の把握等、計画に反映できる教訓が多く得られる指揮所訓練となった。

◆実動訓練における即応力と調整力の強化
7月14日には、東京都多摩地域において高速道路の緊急開口部を利用し、

搬送に用いられ、スカイレンジャーは被害状況の把握や映像伝送に活用された。これらの装備の有効性を検証し、即時救援を行う、災害時における迅速かつ持続的な展開能力を実証した。

7月17日には、余震の発生により避難所で負傷者が発生したとの想定のもと、東京都からの要請を受けて消防庁・東京DMATと連携した救護所を設置。第1後方支援連隊が中心となり、衛生隊員が東京DMATの医師・看護師と共同し、負傷者のトリアージ(重症度分類)や応急処置、さらに緊急搬送及び後送までを実施した。民間医療機関との連携を踏まえたリアルな演練となり、平時からの調整の重要性を再認識するものとなった。

◆訓練参加隊員の声
訓練に参加した隊員は「四輪バギーの機動性を実感することができた。今回の訓練を通じて師団は、災害対応における情報統合、意思決定、即応展開、連携調整といった一連の機能について、より実効性の高い知見と教訓を得ることができた。今後も首都直下地震のような大規模災害を念頭に置き、不断の訓練と関係機関との信頼関係の構築を続け「国民の安全と安心の確保」「首都機能の維持」に貢献していく。



自治体と調整を図る司令部LO



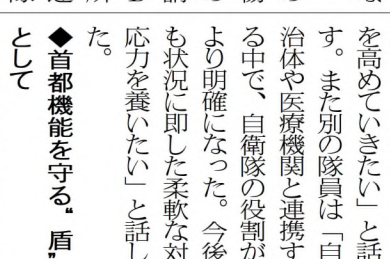
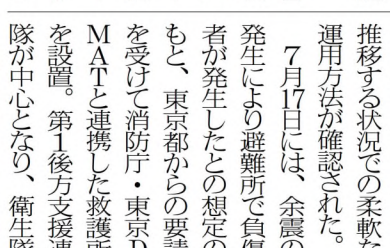
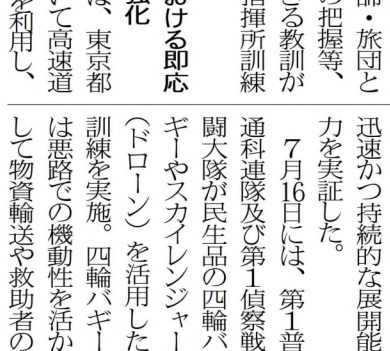
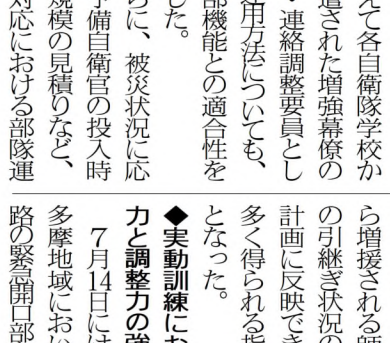
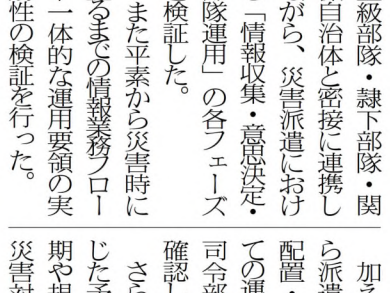
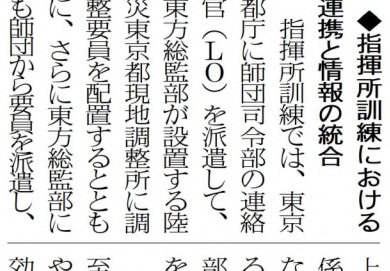
緊急開口部を利用し高速道路に進入



バギーとドローンを活用し災害情報収集



関係機関と連携し救護を行う



1普連

激走し2年連続の入賞の快挙
富士登山駅伝競走大会に参加

第1普通科連隊は8月3日御殿場市において行われた、秩父宮記念第50回富士登山駅伝競走大会に参加した。

連隊持続走訓練隊は8月3日、秩父宮記念第50回富士登山駅伝競走大会に参加した。

この大会は、標高差3,199mを駆け上がり、再び下山する全11区間を6人で襷を繋ぐ過酷な大会であった。

会ではあるが日頃の練成の成果を遺憾なく発揮し、昨年より順位を上げ、第4位となり2年連続の入賞を果たした。

なかでも、第2区中光士長・第10区高久3曹は区間賞で次の走者に襷をつなぎ入賞に貢献した。

持続走訓練隊監督の工藤2曹は、「来年はさらなる上位を狙っていく」と意欲を見せた。

出場選手・監督は以下のとおり

【出場選手】

▼監督 工藤2曹

▼選手(写真前列左から)

- 1区・11区 古川士長
- 2区・10区 高久3曹
- 3区・9区 中光士長
- 4区・8区 田邊2曹
- 5区・7区 西村3曹
- 6区 中村3曹



7区から8区へ襷を渡す様子

同期と支えあい乗り越える
北富士での新隊員教育隊総合訓練



35km行進訓練

新隊員教育隊は8月30日から9月6日までの間、北富士演習場において総合訓練を実施した。

本訓練は酷暑環境下での宿営用天幕の設営・掩体構築、120mm迫撃砲・81mm迫撃砲の実射、個人携帯対戦車弾の射撃、35kmの徒步行進を実施した。

新隊員は総合訓練を無事に乗り越え、普通科隊員として必要な基礎的事項を修得した。



戦闘訓練

青年第2部激闘の第3位

全日本青年銃剣道大会

連隊は8月7日、日本武道館で開催された第56回全日本青年銃剣道大会に参加した。

全日本青年銃剣道大会は全国の駐屯地から数多くのチームが参加する大規模な大会です。



1普通科Aチーム先鋒の澤田士長



健闘を讃えて練成隊で記念撮影

32普連

令和7年度北海道訓練センター訓練
必勝の信念を堅持し任務を完遂

連隊は6月9日から7月11日までの間、令和7年度北海道訓練センター(HTC)訓練に参加した。(写真)

第32戦闘団は必勝を誓った出陣式に続き、数個梯隊に分かれ主に陸路及び海路により上富良野演習場へ部隊移動し、現地に

おける作戦準備を実施した。

32戦闘団は6月24日夕、上富良野演習場において、防衛準備中の敵増強第5

普通科連隊に対し、攻撃行動を開始した。

まず我が情報部隊の潜入、特科大隊及び重迫撃砲中隊の射撃開始を皮切りに作戦の火蓋が切られて

落とされた。

情報部隊は空路による敵後方地域への潜入と併せ、砲迫火力及び16式機

動戦闘車(MCV)による射撃の掩護下に敵の斥

候対処線を突破し地上潜入に成功、戦闘団の攻撃、

火力発揮に必要な情報収集活動を開始した。

情報部隊の入手した目標情報を反映し、精度を増す砲迫火力の掩護の下、

25日払暁(ふつぎょう)前衛第1中隊及び第4中

隊は前方地域において我々の前進妨害を企図する敵部隊の駆逐を開始した。

気温30度を超える酷暑の中、敵は小部隊に分散し障害と連携した砲迫火力の発揮、襲撃の反復により我々の障害処理を妨害、

富士登山駅伝に密着
選手兼監督でチームを上位に導く



敵後方地域への潜入と併せ、砲迫火力及び16式機動戦闘車(MCV)による射撃の掩護下に敵の斥候対処線を突破し地上潜入に成功、戦闘団の攻撃、火力発揮に必要な情報収集活動を開始した。

情報部隊の入手した目標情報を反映し、精度を増す砲迫火力の掩護の下、25日払暁(ふつぎょう)前衛第1中隊及び第4中隊は前方地域において我々の前進妨害を企図する敵部隊の駆逐を開始した。

気温30度を超える酷暑の中、敵は小部隊に分散し障害と連携した砲迫火力の発揮、襲撃の反復により我々の障害処理を妨害、後方連絡線の遮断を図るという奇策を用いて抵抗した。

両前衛両中隊は神出鬼没な敵に手を焼きながら、敵に損耗を与えつつ前進を継続、翌26日昼頃敵第一線陣地に接触を果たした。

奪取、これをもって本訓練の状況を終了した。32戦闘団はあらゆる気象・地形を克服し、必勝の信念を堅持し、持てる能力を最大限発揮して、勝利を獲得することにも、多くの教訓を得ることができた。

連隊は、令和7年8月3日、霊峰富士山を舞台に実施された秩父宮記念第50回富士登山駅伝競走大会に出場した。本訓練は、富士山頂を折り返す標高差3199mの山岳コースで競い合う、日本一過酷といわれる駅伝競走大会である。連隊は、精鋭6名の選手で出場し、真夏の灼熱に加え、厳しい自然環境と高地特有の過酷な条件に挑んだ。結果は去年より順位を2つ上げ自衛隊の部10位となった。

今回は、選手であり監督を務めた立花曹長に密着して

【試合を終えて】
昨年より順位を2つ上げられたことは大きな成長だと感じています。特に、途中まで一桁順位を維持して走ることができ、自分たちの力が十分通用する手応えを感じました。一度は順位を落としましたが、立て直し10位まで順位を上げることができ、選手全員の粘り強さやメンタル面での成長を強く感じました。

【今後について】
来年の2月に行われる埼玉県駅伝に向け、更なる高みを目指して、監督として選手として精進していきます。

34普連

標高差世界一の大会を全面支援
第50回富士登山駅伝競技会

第34普通科連隊は8月3日、御殿場市で行われた「第50回富士登山駅伝」を支援した。本大会は御殿場市陸上競技場から富士山を折り返し、再び競技場を目指す距離48・19km、標高差は世界一の3199mを誇る駅伝であり、同大会を本部管理中隊長以下約100名が通信、人員輸送、救護及び誘導補助等により支援した。



当日は全国から一般及び自衛隊の計100チームが参加し、高低差のある11区間をチーム・個人の名誉をかけてたすきを繋いだ。支援に参加した隊員達は、各選手の健闘を祈りつつ、各種支援を積極的に行い、円滑な大会運営に寄与した。また連隊の持続走チームも選手として参加し、自衛隊の部26チーム中16位であった。写真…二合八勺の中継所で選手の救護にあたる隊員

約3カ月の新隊員教育が終了

一般陸曹候補生後期
新隊員特技課程

34普連隊は9月19日、板妻駐屯地において「令和7年度一般陸曹候補生後期及び新隊員特技課程」の修了式を実施した。本教育は小銃分隊員又は迫撃砲分隊員として必要な識能を修得させるとともに、資質の涵養及び体力の向上を図り、部隊の任務遂行に寄与できる隊員の育成を目的として26名が約3ヶ月にわたり基本教練、各種射撃、戦闘教練、体育等の各課目に励んだ。修了式では、連隊長に対して教育修了及び中隊配置に伴う申告、区隊旗返還、成績優秀者に対する表彰を実施し、兜連隊長は訓示において「これから中隊のチームの一員になることを自覚し、チームとして仲間意識をもってそれぞれの任務に邁進してもらいたい」と述べ、26名は新たな戦力として各中隊に配属された。

防大生の部隊実習を支援



総合訓練で協力し負傷者を搬送する学生

34普連は7月4日から21日までの間、第5中隊が基幹となり「令和7年度防衛大学校第3学年夏季定期訓練部隊実習」を担当・実施した。本実習には防衛大学校第3学年の学生12名が参加し、第一線部隊での体験を通じ、幹部自衛官としての地位・役割を自覚するため、部隊訓練、特別勤務、歴史研修、営内生活等を体験した。特に野外訓練において、猛暑の中、普通科中隊の各種訓練を研修するとともに、市街地戦闘訓練、機関銃の基本射撃検定、終盤には総合訓練として前衛分隊の行動から市街地戦闘に係る一連の状況下で訓練を実施する等、最初は戸惑いながらも一つ一つ理解・実践しながら各課目をこなした。本実習を通じ、学生たちは、将来幹部として役割を果たせるよう普通科部隊の実態を把握し、所望の成果を得て本実習を終了した。



連隊長に対し申告する新隊員

HMG対空実射訓練
標的を撃破し任務完遂



組長、射手及び弾薬手が連携し標的を狙う

連隊は9月5日から同年9月18日までの間、青森県の六ヶ所対空射場に於いて12・7mm機関銃（HMG）の対空実射訓練を実施した。本訓練は第2整備大隊を訓練部隊指揮官として師団隷下各部隊及び方面直轄部隊等から選出さ

れた総勢69名の基幹要員に対し、射撃時の射弾の誘導要領及び組内（組長、射手及び弾薬手）の連携要領の修得を目的として実施された。射手は目視で標的を狙いつつ弾道修正を行い標的の撃破を狙った。本実射訓練に向けて、対空シミュレーション訓練及び対地実射訓練を含め練成を積み重ねて団結を強化してきたこともあり、その成果を存分に発揮することができ、本実射では見事に標的を撃破し当初の目標を達成した。

1後支連

魅せた後支のプライド
北町阿波踊りに参加



会場を沸かせた第1後方支援連隊連



連隊長(左)と駐屯司令(右)の共演

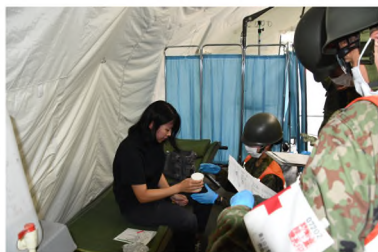


踊り輝く1後支連

第1後方支援連隊は7月26日に東武練馬駅周辺で開催された第31回きたまち阿波おどりに参加した。きたまち阿波踊りは毎年7月の最終土曜日に実施され、平成5年の開催以来、今年で31回を数える。今年は「第一後方支援連隊連」として連隊長を始め、総勢45名が参加した。隊員らは自衛隊らしい力強く統制美のある舞で観客を魅了した。鳴り物は激しく乱舞する隊員たちを、太鼓・笛・鉦（かね）の音でさらに小気味よく舞い踊らせた。最後は駐屯地司令の柳田陸将補を始め、師団司令部からの参加を受け、その日の一番の盛り上がりを見せ沿道からは、連隊の熱気に満ち溢れた姿に惹き込まれた観客が歓声を上げた。

東京DMATとの連携

連隊は7月14日から17日までの間、新宿中央公園で実施された大規模震災発生時訓練に参加し、負傷者が発生した想定のもと救護所を開設するとともに、東京消防庁・東京DMATと連携（写真①）として救急救護活動について演練し（写真②）、災害時における連携・調整の重要性を共有した。



1 高大

北の大地にて要撃成功
対空実射訓練検閲を受閲

第1高射特科大隊は、間、静内対空射場（北海道）において令和7年度空実射訓練検閲を受閲した。



近SAMによる対空戦闘

本訓練検閲において、高射学校作戦評価室による評価支援の下、指揮情報中隊及び高射中隊の模擬実射、射撃準備及び対空実射に係る練度を評価・判定をし、更なる練度向上に資する教訓を獲得した。

大隊は、年度当初から首都圏防空における作戦遂行能力の向上を図るべく、昨今の経空脅威の趨勢を踏まえ、段階的に演練し、練度を向上させてきた。今年度の対空実射は、暑さとの戦いでもあった。非常に過酷な環境にもかかわらず、各隊員はこれまでの練成訓練の成果を存分に発揮し、要撃を成功させ本訓練検閲を終了した。

訓練所感

指揮情報中隊
井上1士

対空実射に参加するに当たり、中隊内における勤務等への配慮や、集中して練成に臨める場を作ったことに対し、中隊及び大隊の皆様には感謝しております。

今回、捜索手として初めて対空実射に参加しました。緊張と不安でいっぱいでしたが要撃成功という結果に貢献できたことを大変嬉しく思っています。練成を始めた当初は点検要領が覚えられず悩んでいました。そんな未熟な私を休日返上で支え指導してくれた発射班長と発射手、そして最後の最後まで、励まし指導してくれた小隊の先輩たちに本当に感謝しています。



これからも日々努力し訓練に精進していきます。

1 施大

猛暑・豪雨にも屈せぬ施設科魂
令和7年度第1次師団訓練検閲

第1施設大隊は、9月2日から7日までの間、習場において、令和7年度第1次師団訓練検閲を受閲した。



O7式機動支援橋の完成試験

本検閲では1都6県の防衛・警備、国民保護等に従事する施設大隊として、気温が35度を超す猛暑や台風15号による豪雨等の過酷な気象条件下で陣地構築や警備、国民保護支援と多様な任務を付与され、各任務を屈強な施設科魂をもって完遂した。

特に、4.5型LPを用いた指揮所用掩壕等の構築を担当した第1中隊は、中隊長要望事項「責務を完遂せよ」の下、各人の地位・役割を踏まえ、継続的に状況判断して行動し、中隊一丸となって任務を完遂した。

第1中隊長の北原1尉は「過酷な環境にあっても任務を遂行することが出来る隊員達を頼もしく誇りに思う。頭号施設大隊の頭号中隊としてさらに進化を続けたい」と語った。また第2分隊長を務めた鈴木3曹は「指揮所等の構築では、重い資材の運搬等のきつい作業が続く、体力的に非常に過酷でした。今後この経験を糧に分隊長として更なる向上を目指していきます。」と語った。

東富士演習場では渡河器材小隊及び交通小隊がO7式機動支援橋の架設や道路整備を行い、国民保護支援任務を完遂した。



指揮所用掩壕の受け渡しのための調整を実施す第1中隊長

1 音

北とびあきくらホールにて開催
第4回王子コンサート

第1音楽隊は7月24日、北とびあきくらホール（北区王子）において、このコンサートは募集



佐野2曹オーボエソロ



地元高校生との合同演奏

対象者及び近隣住民等の幅広い年齢層を対象に、自衛隊に対する理解及び親近感の醸成を目的として開催しており、毎年地元・高校生との合同演奏を行う等、地域に根付いた演奏会の一つとなっている。

演奏会は2部構成で行われ、第1部では「ザ・バンドワゴン」で華しく開幕し、2025年度吹奏楽コンクール課題曲より「メモリーズ・イン」など4曲を演奏し、吹奏楽の力強さや優しさを存分に表現した。

第2部は冒頭から雰囲気を変え「SPY×FAMILYメドレー」、「モリコーネ・メドレー」の2曲を演奏した後、合同演奏のステージに移り、サレジオ国際学園中学・高等学校及び駿台学園中学・高等学校吹奏楽部を加えて、組曲「鬼滅の刃」、アンコールでは「残酷な天使のテーゼ」を合同で演奏、大盛況の中終演を迎えた。

1 飛

ドアガン射撃
射撃練度の向上を図る

第1飛行隊は7月15日から29日までの間、令和7年度多用途ヘリコプターからの機関銃・重機関銃射撃訓練（ドアガン射撃訓練）を佐多射撃場（鹿児島）において実施した。

本訓練は第1飛行隊長を担任官として、師団各普通科連隊及び1飛から選抜された射手に対し、パイロット及び射手の連携要領並びに飛行要領に関する練度の向上、ヘリコプターからの射撃練度の向上を図ることを目的として行われた。



パイロットと連携しての重機関銃での射撃



夕日を背に射撃

訓練に参加した隊員は「機体の動きに合わせながら照準を定めるのは想像以上に困難であり、自分の技能の課題も明確になった」と話し、本訓練の成果と練度向上への意欲がうかがえた。

1飛はあらゆる事態に即応できるよう、今後も実践的な訓練を重ねていく。

1 偵戰大

第1次師団訓練閲受閲

「闊達」
「不撓」を胸に臨む

1偵戦大は、9月3日から7日までの間、第1次師団訓練検閲に参加し、大隊訓練検閲を受閲した。本訓練検閲では、交戦訓練用装置（バトウ）を装着し、実際の訓練環境を作为了大規模演習となった。

任務を遂行し、敵拠点を概定、じ後の部隊運用に資する情報資料を収集するとともに関係施設等に対する攻撃兆候を警告し、未然防止に努めた。

本訓練検閲中、気温35度を越える残暑と台

大隊は2日、隊容検査・出陣式を実施し、作戦準備状況の確認及び隊員の士気の高揚を図った。

3日には数個の梯隊に区分し、朝霞駐屯地から作戦地域（東富士演習場）へ前進、じ後、計画に基づき、師団警備地区内の情報収集・警戒監視等を作戦間の終始を通じて実施した。

各中隊は、若干の損耗を受けつつもたむぎに

風通過による豪雨により、隊員は心身共に疲弊していたが、大隊長要望事項を信念に、どんな困難な場面でも「くじけず・ひるまず」任務を遂行し、師団の作戦に最大限寄与した。

1偵戦大は、本訓練検閲で得た教訓を基に、あらゆる事態に即応できるよう実践的な部隊練成を引き続き実施する。

訓練所感

○偵察中隊 甲野3曹

第2小隊隊長候陸曹として参加しました。バトラ装着時のオートバイ操縦や斥候活動は不慣れで苦勞しましたが、現段階での自分の能力は発揮出来たと思います。明日から更なるスキルアップに励みます。

小銃分隊機関銃手として初めて訓練検閲に参加しました。日頃の訓練から訓練検閲における任務遂行を目標に練度を高めてきた結果、独特な緊張感が漂う中ではありましたが、小隊の一員として成果は残せたと思います。次は優秀隊員を目指します。



1 通大

第1回大隊訓練檢閲

師団検閲における統裁通信任務を完遂

大隊は8月29日から9月8日までの間、第1次師団訓練検閲における統裁通信任務を完遂した。

本検閲統裁通信支援に伴せ、第1回大隊訓練を実施し、本部管理中隊のFicsサーバの維持・

運営、第1中隊の指揮所通信支援、各隷下部隊に対する同行通信支援及び第2中隊の基盤通信網の構成・維持・運営等、それぞれの任務遂行能力の向上を図った。演習命令に基づく師団システム

通信組織を構成する練度
に問題はないことが確認
できたが、電磁波を探知
して飛来するドローンや
ミサイル攻撃等、敵の脅
威から通信所をどのよう
に防護するか、その対策
が今後の課題となる。

通信組織を構成する練度
に問題はないことが確認
できたが、電磁波を探知
して飛来するドローンや
ミサイル攻撃等、敵の脅
威から通信所をどのよう
に防護するか、その対策
が今後の課題となる。



1 特防

戦争犯罪立証の証拠を採取

CBR 事案対処を演練

第1特殊武器防護隊は、9月3日、令和7年度第2次師団演習において第126地区警務隊とCBV（化学・生物・放射線物質）事案対処訓練を練度向上を図る。

特防隊は5月の第1次品田演習において、違法立立証に資する試料採取・移動を演練したが、警務隊との連携要領は未実施もあった。そのため本訓練では、特防隊と警務隊の連携要領の確認及び試料採取時の証拠保全要領



写真⑥…すべての行動を証拠として記録
写真⑦…特防隊員（黄）が採取した試料を撮影する警務官（白）



1 師付

さらなる飛躍へ

第2回隊訓練を練馬で実施

第1師団司令部付隊は8月25日から26日までの間、第2回隊訓練を実施した。訓練に先立ち、訓練幹部により想定との付与、任務分析、作戦計画及び昨年度のSOPが周知され、本訓練の目的が明らかにされた。

おける点検要領等について認識を統一したのち実行動の訓練に移行した。事態対処訓練では負傷者発生、被拘束者の拘束及び襲撃対処と、さまざまな状況を付与して部隊の連携要領を確認した。山本2曹は「不測事態

訓練初日は師団法務幹部による各種事態における自衛隊の権限について法令教育を受講した。

では臨機応変の対処と、判断に迷いが生じたら迅速に応援を呼ぶ必要があると考えさせられた。ま



1 師付隊は、更なる飛躍と有事における任務を完遂するため、着実にその歩を進めていく。

写真⑤… 法務官による法令教育

写真⑥… 不審者を制止する隊員



頭号 清談

「全国諸兵の模範」

第1偵察戦闘大隊長

2等陸佐 佐藤 輝明

第1偵察戦闘大隊長の佐藤2佐です。第1偵察戦闘大隊は、朝霞駐屯地に所在しており、令和4年3月、廃止された第1偵察隊と第1戦車大隊の要員を基幹として誕生した新しい部隊です。今回はそんな新しい部隊「偵察戦闘大隊」を隊員の気質の観点から紹介します。

偵察戦闘大隊の任務は師団長の耳目となり、その決心及び部隊運用・火力運用等に資するための

偵察に任じ、必要に応じて警戒等を行うことです。部隊の編成として本部管理中隊、偵察中隊及び戦闘中隊という特性の異なる3つの中隊を持ち、それぞれ「管理機能」「主として隠密手段による偵察」「主として強行手段による偵察」を実施します。

戦闘中隊はMCVを装備しており、MCV乗員は「機甲特技」（いわゆる戦車特技）保有者です。その他の大多数は「偵察特技」保有者です。MCV乗員はほとんどの者が元戦車乗員であり、その気質を持っています。例えば、車長は「単車の行動について全責任を負う」と教育されますので、自分の乗員の面倒をよく見ます。はたから見ると少々べったりすぎでは、と思うこともしばしばあります。また、戦車小隊長は常に小隊の先頭を行くことから非常に危険度が

高いため、その職責に対する隊員の敬意は大きく、食事の時は隊員が「小隊長、メシです」と持ってきてくれたりします。これが偵察特技の隊員だと全く異なります。偵察部隊は少人数で行動し、数日分の食料等を自ら携行して行動します。任務も連続不断的の偵察・監視などであり、少人数の中で交代しつつ仮眠、食事等を取ります。このことから非常に独立心が強く、「メシ、睡眠は個人もち」の考えが浸透しており、幹部職の斥候班長にも基本的に食事を出しません。部下、後輩の面倒見も戦車的な「べったり」ではなく、「補い、促し、助ける」というような、独

立的な解決を促進するものが多いように見受けられます。

一方で、偵戦大においては、MCV分隊長は上級機甲特技と上級偵察特技の二つを取得する必要があります。また、小銃分隊員及び迫撃砲分隊員には偵察特技保有者が充てられます。新編から3年が経過し、入隊当初から偵戦大でキャリアを積んだ隊員も増えてきました。その隊員はどのような気質になるのでしょうか。これからが非常に楽しみです。

皆様におかれましても、偵戦大と協同訓練等を実施する際、隊員の気質もよく観察してみてください。



今期の頭号男子は朝霞駐屯地に所在する、第1施設大隊の塙士長です。塙士長は神奈川県出身

男子 The Man of 1st Division

「苦難上等」

第1施設大隊

塙 藍太郎 陸士長

も特に体力や忍耐力が求められる陣地構築をはじめ、銃剣道練成等様々な訓練に励んでいます。

Q1・施設科を希望した理由は？

災害派遣等で前線で活動したためです。

Q2・普段行っている業務とその業務の魅力はなんですか？

施設手として、日々施設器材の取り扱い等の練成を行っています。

魅力は、有事の際、練

成成果を発揮できるのはもちろんのこと、普段の生活の身近なところでも役に立つことが多いことです。

Q3・思い出深い訓練は何ですか？ 今年の2月に実施された中隊訓練検閲です。

雪が降る極寒の中での訓練で、訓練内容自体も過酷でした。また、このような時期に災害が発生した場合の被災した方々の辛さを肌で感じられたと思います。

Q4・ご自身のモットーと心がけていることは？

「苦難上等」です。

今後は公私ともに充実し、塙士長のモットーである「苦難上等」の精神で陸曹になり益々活躍する姿が楽しみです。

Q5・趣味は何ですか？

野球です。学生の際は甲子園を目指して必死にやっていた、この時の努力が、苦難に立ち向かう原点となっています。この他、銃剣道にも打ち込んでいます。

Q6・今後の目標は？

中隊や大隊、国民の期待に応えられるように日々成長していきます。

と語ってくれました。

部隊や国のために日々の訓練に励み、自ら進んで苦しい道を進み、不撓不屈の精神をもって任務に邁進する塙士長。

最先任 上級曹長 頭 COMMAND SERGEANT MAJOR

「岳南精神」 第34普通科連隊 准陸尉 渡邊 毅



令和6年3月に第8代第34普通科連隊兼ねて板妻駐屯地最先任上級曹長を拝命しました渡邊毅です。

第34普通科連隊は橋連隊とも呼称されますが、旧陸軍において国民の多くの尊敬を集めた軍神橋中佐が所属したのが静岡

歩兵第34聯隊であり、昭和37年静岡県に陸上自衛隊普通科連隊を新編する際、多くの地元の方の嘆願により「34」の数字を冠することとなった歴史と伝統があり、地域の方々の厚い信頼を得ている部隊となります。

橋中佐の御遺訓を継承して橋連隊と呼称されていますが、その御遺訓とは橋中佐のお人柄や言動・行動を表した岳南精神「矢弾飛び交うもて人間愛、戦友愛、難局における献身的行動」です。

橋中佐は毎日軍人勸諭を奉読し、国家に対する忠誠心を誓い、有事に備える物心両面の準備を整え、寸暇を惜しんで武術に励み、体力を練成し、

教育法や戦術の研究を怠らず常に率先垂範に努め、積極的に隊務に精進させる雰囲気を作り上げるとともに、部下を愛することとわが子のごとく、部隊は情愛に満ち溢れた家族のような理想的な部隊を実現したと言われています。

我々34普通連の隊員一同は素晴らしい岳南精神を心に留め連隊の隊員であることを誇りに思い、一人の人間として立派に成長するとともに静岡の地域担任部隊として地域社会に愛される部隊になれるがごとく、部隊の歴史と伝統の継承者である下士官の先導者として努めてまいります。



「笑顔・感謝」 第1特殊武器防護隊 山口 梓 1等陸曹



今期のフェアレディーは、練馬駐屯地に所在する第1特殊武器防護隊の山口1曹です。

平成18年3月に入隊し第1施設大隊・女性自衛官教育隊で勤務し、現在は第1特殊武器防護隊の隊本部に所属し、人事陸曹

として、また上級部隊相談員、駐屯地力ウンセラとして部隊の垣根を越えて活躍しています。

Q1・思い出深い訓練は？

令和6年5月から7月までの約2ヶ月間にわたって実施された第1次師団演習・第1特殊武器防護隊検閲受閲です。恒常業務と並行しつつ、様々な状況に対応する中で、日ごろからの任務遂行及び継戦能力の保持がいかに重要かを改めて認識しました。

Q2・趣味は？

心理学やカウンセリングに関する書籍を読んだり資格を取得すること、空手（初心者）、美容関連の情報収集です。

Q3・今後の目標は？

心身の健康維持と業務の知識・技術の向上です。自衛官として、母として、ひとりの人間として心身の充実を図り、微力ながら部隊の戦力となり、更には力ウンセラや相談員として少しでも誰かの役に立つことができたらと思います。

Q4・最後に一言

私が現在こうして自衛官として勤務できているのは、上司や同僚、後輩、友人、家族など多くの方々の支えあってこそだと感じています。

日頃から皆様への感謝の気持ちを忘れず笑顔で大切にして、これからも前向きに取り組んでまいります。

退官者紹介

- 第1普通科連隊 伊東 博正 曹長 (8月9日付)
- 第32普通科連隊 峰川 泰輔 曹長 (7月29日付)
- 第34普通科連隊 山口 達夫 曹長 (7月15日付)
- 佐藤 憲一 1曹 (7月16日付)
- 牧野 俊昭 1曹 (8月7日付)
- 第1後方支援連隊 上田 昌宏 曹長 (8月1日付)
- 第1偵察戦闘大隊 伊藤 敏彦 曹長 (7月24日付)
- 大久保 雅章 曹長 (9月25日付)

フォロワー募集

師団活動状況
イベント情報
発信しています

